

①

I

神保道から九所下幸町一 古本屋街 三時書店  
(1902~1905)

(1902-1905)

1902(明治35) 重宣物語子役へ入ったとき、三才劇  
団主向監督のときに、書店で上ませては行はれ  
ばどんを書類たが、おつか、いかがでござるのか、今りませ  
ぬなかつた。下さりから近いお茶つきに書類十種類  
とくにあるてつていい。(いまの聖堂) おおと  
塔計の一郎(一郎)、書かけたか、藏書といへば(外口洋の  
本は) 左く、日本(日本)の書物では、新しい書き、日本(日本)の  
古い本はなく(日本)で、二、三本(日本)で止めた。本は  
書館は全く(日本)すばらしく、(日本)上野の口  
短時間のうちに(日本)を終了して、到底(日本)見(日本)を  
判つたうべ、これが(日本)止めた。(日本)

この日金券やカードも用ひて、日本洋の本(日本)、(よさを)  
左、あまり多くないつたと(本当に庭にならうだま、(日本)玉川  
里やれた。) さて、あはらは(日本)までに  
英洋の存書(一西洋経済、トヨシヨウ) さて、(日本)までに  
桂(桂)には、置(置)てててててて、(日本)までに  
又説教物を(日本) 次にあけた書物

は、(日本)から(日本)向(日本)とんがん古世(日本)が  
古く知らません。 (日本)

1910(明治43) さて、代(代)の書店(書店)は  
外口(外口)歌詞(歌詞)、挿画(挿画)が見えなく(日本)つか  
やがましくなったゆめか(日本) 田村(田村)書物は、ちい分(日本)ま  
さうれんよろびす。 落(落)成の命令印(命令印) 田村(田村)とい  
て(日本)書物、書(書)を代(代)せよと(日本)古(古)いし  
えりませんが、感謝(感謝)して(日本)いわゆる

1年生ほどで、新本成記の物理カリキュラム(カリキュラム)を  
宝掌(宝掌)と(日本)音符書を(日本)上野門  
音符(音符)を(日本)書いた(日本)カド(カド)と(日本) Lord  
レー(レー) Theory of sound(音)、二巻の大冊が主た(日本) 徒歩(徒歩)  
をうい(うい)て(日本)は、大(日本)歩(歩)かし(歩)か  
を(日本)かくめて、お(お)う(う)と(日本)が(日本)。 徒歩(徒歩)

(2)

英米で販売される書  
の本が、しかもあまり特別な専門書でない  
一般的な書ではないか  
と医人である。

## 田村書店の翻刻本 (1898~1901)

- 1112 Chrystal, Algebra, I, II. (1890) 29禁一巻を以て  
ホバソン Hobson, Plane trigonometry. 29禁二巻を以て宝の庫  
サムソン Salmon, Conic sections. 19禁四巻  
トドハント Todhunter, Differential calculus. 39禁  
トドハント Todhunter, Integral calculus. 39禁  
ジョンソン Johnson, Differential equations. 39禁三巻  
フォーセス Forsyth, Differential equations. 39禁三巻  
ネット Netto, Theory of substitution. (1911)  
ハナック Harnack, Differential and integral  
スミス Smith, 大代数 Calculus (1911)  
Treatise on Algebra  
化の書店の翻刻本。日本で宣傳著書  
バーンサイド Burnside and Panton, Theory of  
equations. I, II. 19禁四巻  
ショグニエ Chamrenet, Elementary geometry.  
パックル Puckle, Conic sections. 内容四巻 (子爵級教科書)  
アーリス Aldis, Solid geometry. 部分四巻 (子爵級教科書)  
ダーリン Williamson, Differential calculus. テクスト四巻  
ダーリン Williamson, Integral calculus. 19禁

当時高卒工場で林の若手は、林の子孫の恩師の  
三字先生(45歳)が「金の文書」  
いからかに書いた。

高木先生が29歳、若い林の名前を書いた。  
新井の日本比類なき書道者(明治31年、1904)

説明  
「微積分」の著者、古事記限の概念を示す  
日本で最初の13年、後りに著した福田半之  
「筆算 微積入門」(1880—明治25年)

英 トドハッカ、長崎電気会社「微積分」(1881), 「積分学」(1882)  
チャーチ・日本別冊社「直氏微積分学」(明治16)(1883)  
Lagrange の微積分の定理が証明され  
この三つが井先生の書物の比較研究。

無限小の量、微積分  
微積分の定義、微積分の定理  
影響による  
微積分の定義  
微積分の定義  
微積分の定義  
 $f(x) = a_0 + a_1 x + a_2 x^2 + \dots$   
 $f'(x) = a_1 + 2a_2 x + 3a_3 x^2 + \dots$

少年時代から革新的な金を拂って  
アントワネット、オストウード、アルレニウス  
等の著者が書いた論文を、孰れか  
見出したときの感動!

また多くの多くの金で「車でから藝能院」  
があつたか、「若手」  
「上級甲斐」があつたと見えます。この車は「藝能院」の車で、  
林の「仕事の一面を知ったのが、(1905年)

新井の書物を林の手中にはあるようですが、  
6月の「大正13年」の本、在家中(明治38年)の  
新井の書物を「面白く書いた」と書いています  
「新井の書物を面白く書いた」と書いています

「微積分」(明治36年、1903)は「中子、東洋  
高木立七が著、新井算体行書字、これは高木立七が書いた、15号  
坂井英太郎、高木教方「微積分」(明治23年、1900年)は「中子、東洋  
などでした。(当時、新井は新潟にいました。)

[今日の教師研究会]  
Mellor, Higher mathematics  
for students of chemistry  
and physics.

## II

それから1年半は、3月に新潟へ向かって、  
ほんとうに数学の研究をはじめました。(林先生一生  
生の指導を受けたから) 1907年です。重慶学習院  
まち: 田村書店(ホレコ)の書物を購入して、丁寧に52  
回も(220)まで、全部を

(主に御里山、时尚新刊をつく)はじめました。私は  
サークルの「月刊田舎」に付けていた  
(物理子供)書子で、矢印が一書面白くなかつた。

これが一度読みあわせ、4-12の原書を  
見出して、

東大の化学会誌に一年目にいた。化学会誌室  
では(中子)専門的文化化学論文を多く取り扱う  
書は、専外十人、専門の化学雑誌の back number  
の多いもので、多くされた。化学連合会で上研究上  
の豆をつけてある。

(4)

1907.08.09, 10,

大人の書

仙台行記

4年 1月 那文の呉子書て 同上  
 わは少なからぬ、刀  
 されば  
 杜鵑一先生、大食書房、「大人の書」  
 著書の左側。 「公算法」と「御稿方  
 学の基礎」

大人の書の「大人の書」

面白いですね、「大人の書」これ 面白い  
 が、2月23日から本が来た。  
 お他おとこさん著物行記

「近世経済学の発展」である。  
 (吉川さん「みるは、太正の頃にじめ、明治時代にさかんに、  
 序に「大人の書」の著者である、  
 その道筋を示す  
 七五二)

(3)

(

物記を挙げると、たゞは、當時の  
高貴な氣質や獨立の高貴な性のうちのまゝ  
祖つされど、現より内寧<sup>ノ</sup>太夫が~~死~~<sup>居</sup>  
なり。故にいわゆるフランス流り  
たり、微分の起步は<sup>代</sup>時代で<sup>ナシヤリ</sup>  
日本は独立して<sup>ナシヤリ</sup>、微分で  
平行<sup>ナシヤリ</sup>はいつた。近世各行  
るんが、シヤール<sup>ノ</sup>解説<sup>ノ</sup>發行<sup>セシム</sup>  
直義の抜書<sup>ナシヤリ</sup>たりて、極めて  
難解であった。一方、算術<sup>ノ</sup>はセレ<sup>シム</sup>  
多<sup>シ</sup>解説<sup>ノ</sup>發行<sup>セシム</sup>、人<sup>ノ</sup>無<sup>シ</sup>發行<sup>セシム</sup>

~~公理化方法~~ → 公理化方法

~~身体がつかれ~~

時々そんな気分

がたります

~~気分が落ちついて~~

七七八八

(6)

ヤイタケラジ  
1322年が流れ去つてジドヤの街は死んでいた。  
4年後に全部死んで一晩の間に死んでいた。

数学者と代数学 (はじめの方まで)  
Dirichlet の数学者 (デリクレ) (数学者) (数学者)  
Dickson, 球面方程式 (球面方程式)  
Serret の代数学 (ドイツ系) (数学者)  
(Weber の代数学 I, II (IIは未完成)) (数学者)

微積分学 (数学者)  
Dini, 微積分学 (英訳が丸巻にあつたので、自分で翻訳)  
Haiknus Morley の微積分学  
Dini, 微積分学 (これはドイツの翻訳)  
Forreyth, 微積分学 (ナッシュ著者) (数学者) (数学者)  
Hardy, 純粹数学 (これは1910年の新刊書をよんで、  
物理学者の著者) (数学者) (数学者) (数学者)  
Bromwich, 微積分学 (前半だけ) (数学者)

幾何学  
Cremona, 射影幾何学 (英訳書)  
Salmon の幾何学書は本国で出版されなかつたので、  
Friedler 著者 (これは平面幾何と、立体幾何学の二つだけ) (トイト著者)  
よくわかる難解な箇所が多かつた。  
Bianchi, (トイト著者) (トイト著者)  
ビアンキ (トイト著者)

番外記録  
この上のほから クライヒリーの著者の中  
はいはい  
教科書のつくりに注目、

	35n	Goursat, Cours d'analyse I
と	Picard, Traité d'analyse I	このよんで、故郷へ。
を		

①

賃金 1500 円  
hannen

新規  
エルジニア、フロント  
アートリエ、デザイナ  
開発部門  
日本統一

13亿2, 高卒専門工場工 I, II  
13亿2, 長何さんお43歳で転職の原因  
13亿2, 高い立地場所より販売額が高

11-1, 微分方程解き方  
11-1, 逆元と逆形関係  
11-1, 切換関係変形方

エラスの論議によって、  
それが平均の書かれ方、順序ある事で  
さとうと  
大谷道みづ

なぜ抱かれて、大きな影響を受けようになつた。とくに銀行は直成山  
人たしか 2の方から却つて Klein-Lie? 魅力にさかれて、面おもて  
ラル

費用がかかるので(外國の銀行)には心を向けていた。  
しかし三上草太さんから時代 Archiv der Mathematik und  
Physik, Jahresbericht der Deut. Math. Verein  
なぜか別側へ行って、寄り置かれて  
大きな割合は大きく降低了された (見聞を擴めたまひ)  
→ 現代の Encyclopädie der mathematischen Wiss  
ナレシズム出版中の書籍  
を置く、これを先生とお譲り 算術

これは 車北大さんへ行って、専門書の外へ  
銀行へ、まさに奪われた。  
会計

なぜ車北さんは図書がなかったか。  
(既に成ったところ)

第一稿  
車北さんの利害  
(影響)

これから大手の本筋から  
④販売の和算のお話

新字体の人口の増加

保守の増加

銀行の増加

沿街行会連が吉田輔朝を出し  
始めたのは 1929 年で、(大正 13)  
2 月から 11 月(約 10 カ月)

大正 13 年 2 月から 1930 年 2 月まで  
新しい銀行を出し  
支店を増加して  
1930 年 7, 8 月まで

單行本

圓正吉

圓

彦根松三郎

高島代子(昭和 3 年)

方程手稿 1929

1928

代子工、工

1928-9

高木良次

代子備工

1930-11

井谷宣一 一般函稿

1930 (書)

正田

抽象代数

1932

宮田忠彦

印刷機会社手稿

1939

彦根松三郎

181 分手稿

1939

これまで、味ひ、25 年 3 月 31 日、田村は 22 歳  
田村書店のハンコ(レギ),  
といえよよしだった。

1927 (明治 2)

日本書院出版会  
(元文) 創刊

①

第一次大戦終戻  
大正後期から昭和初期にかけて、日本書院  
発行・思想の解放の時代であった。

吉田は一方では、日本書院による新字体の發展力  
において、(大正 13) 亂世の変遷を経て、(昭和 1) ま  
で、(昭和 5) ままで、(昭和 11) ままで、(昭和 15) ま  
で、(昭和 19) ままで、(昭和 23) ままで、(昭和 27) ま  
で、(昭和 31) ままで、(昭和 35) ままで、(昭和 39) ま  
で、(昭和 43) ままで、(昭和 47) ままで、(昭和 51) ま  
で、(昭和 55) ままで、(昭和 59) ままで、(昭和 63) ま  
で、(昭和 67) ままで、(昭和 71) ままで、(昭和 75) ま  
で、(昭和 79) ままで、(昭和 83) ままで、(昭和 87) ま  
で、(昭和 91) ままで、(昭和 95) ままで、(昭和 99) ま  
で、(昭和 103) ままで、(昭和 107) ままで、(昭和 111) ま  
で、(昭和 115) ままで、(昭和 119) ままで、(昭和 123) ま  
で、(昭和 127) ままで、(昭和 131) ままで、(昭和 135) ま  
で、(昭和 139) ままで、(昭和 143) ままで、(昭和 147) ま  
で、(昭和 151) ままで、(昭和 155) ままで、(昭和 159) ま  
で、(昭和 163) ままで、(昭和 167) ままで、(昭和 171) ま  
で、(昭和 175) ままで、(昭和 179) ままで、(昭和 183) ま  
で、(昭和 187) ままで、(昭和 191) ままで、(昭和 195) ま  
で、(昭和 199) ままで、(昭和 203) ままで、(昭和 207) ま  
で、(昭和 211) ままで、(昭和 215) ままで、(昭和 219) ま  
で、(昭和 223) ままで、(昭和 227) ままで、(昭和 231) ま  
で、(昭和 235) ままで、(昭和 239) ままで、(昭和 243) ま  
で、(昭和 247) ままで、(昭和 251) ままで、(昭和 255) ま  
で、(昭和 259) ままで、(昭和 263) ままで、(昭和 267) ま  
で、(昭和 271) ままで、(昭和 275) ままで、(昭和 279) ま  
で、(昭和 283) ままで、(昭和 287) ままで、(昭和 291) ま  
で、(昭和 295) ままで、(昭和 299) ままで、(昭和 303) ま  
で、(昭和 307) ままで、(昭和 311) ままで、(昭和 315) ま  
で、(昭和 319) ままで、(昭和 323) ままで、(昭和 327) ま  
で、(昭和 331) ままで、(昭和 335) ままで、(昭和 339) ま  
で、(昭和 343) ままで、(昭和 347) ままで、(昭和 351) ま  
で、(昭和 355) ままで、(昭和 359) ままで、(昭和 363) ま  
で、(昭和 367) ままで、(昭和 371) ままで、(昭和 375) ま  
で、(昭和 379) ままで、(昭和 383) ままで、(昭和 387) ま  
で、(昭和 391) ままで、(昭和 395) ままで、(昭和 399) ま  
で、(昭和 403) ままで、(昭和 407) ままで、(昭和 411) ま  
で、(昭和 415) ままで、(昭和 419) ままで、(昭和 423) ま  
で、(昭和 427) ままで、(昭和 431) ままで、(昭和 435) ま  
で、(昭和 439) ままで、(昭和 443) ままで、(昭和 447) ま  
で、(昭和 451) ままで、(昭和 455) ままで、(昭和 459) ま  
で、(昭和 463) ままで、(昭和 467) ままで、(昭和 471) ま  
で、(昭和 475) ままで、(昭和 479) ままで、(昭和 483) ま  
で、(昭和 487) ままで、(昭和 491) ままで、(昭和 495) ま  
で、(昭和 499) ままで、(昭和 503) ままで、(昭和 507) ま  
で、(昭和 511) ままで、(昭和 515) ままで、(昭和 519) ま  
で、(昭和 523) ままで、(昭和 527) ままで、(昭和 531) ま  
で、(昭和 535) ままで、(昭和 539) ままで、(昭和 543) ま  
で、(昭和 547) ままで、(昭和 551) ままで、(昭和 555) ま  
で、(昭和 559) ままで、(昭和 563) ままで、(昭和 567) ま  
で、(昭和 571) ままで、(昭和 575) ままで、(昭和 579) ま  
で、(昭和 583) ままで、(昭和 587) ままで、(昭和 591) ま  
で、(昭和 595) ままで、(昭和 599) ままで、(昭和 603) ま  
で、(昭和 607) ままで、(昭和 611) ままで、(昭和 615) ま  
で、(昭和 619) ままで、(昭和 623) ままで、(昭和 627) ま  
で、(昭和 631) ままで、(昭和 635) ままで、(昭和 639) ま  
で、(昭和 643) ままで、(昭和 647) ままで、(昭和 651) ま  
で、(昭和 655) ままで、(昭和 659) ままで、(昭和 663) ま  
で、(昭和 667) ままで、(昭和 671) ままで、(昭和 675) ま  
で、(昭和 679) ままで、(昭和 683) ままで、(昭和 687) ま  
で、(昭和 691) ままで、(昭和 695) ままで、(昭和 699) ま  
で、(昭和 703) ままで、(昭和 707) ままで、(昭和 711) ま  
で、(昭和 715) ままで、(昭和 719) ままで、(昭和 723) ま  
で、(昭和 727) ままで、(昭和 731) ままで、(昭和 735) ま  
で、(昭和 739) ままで、(昭和 743) ままで、(昭和 747) ま  
で、(昭和 751) ままで、(昭和 755) ままで、(昭和 759) ま  
で、(昭和 763) ままで、(昭和 767) ままで、(昭和 771) ま  
で、(昭和 775) ままで、(昭和 779) ままで、(昭和 783) ま  
で、(昭和 787) ままで、(昭和 791) ままで、(昭和 795) ま  
で、(昭和 799) ままで、(昭和 803) ままで、(昭和 807) ま  
で、(昭和 811) ままで、(昭和 815) ままで、(昭和 819) ま  
で、(昭和 823) ままで、(昭和 827) ままで、(昭和 831) ま  
で、(昭和 835) ままで、(昭和 839) ままで、(昭和 843) ま  
で、(昭和 847) ままで、(昭和 851) ままで、(昭和 855) ま  
で、(昭和 859) ままで、(昭和 863) ままで、(昭和 867) ま  
で、(昭和 871) ままで、(昭和 875) ままで、(昭和 879) ま  
で、(昭和 883) ままで、(昭和 887) ままで、(昭和 891) ま  
で、(昭和 895) ままで、(昭和 899) ままで、(昭和 903) ま  
で、(昭和 907) ままで、(昭和 911) ままで、(昭和 915) ま  
で、(昭和 919) ままで、(昭和 923) ままで、(昭和 927) ま  
で、(昭和 931) ままで、(昭和 935) ままで、(昭和 939) ま  
で、(昭和 943) ままで、(昭和 947) ままで、(昭和 951) ま  
で、(昭和 955) ままで、(昭和 959) ままで、(昭和 963) ま  
で、(昭和 967) ままで、(昭和 971) ままで、(昭和 975) ま  
で、(昭和 979) ままで、(昭和 983) ままで、(昭和 987) ま  
で、(昭和 991) ままで、(昭和 995) ままで、(昭和 1003) ま  
で、(昭和 1007) ままで、(昭和 1011) ままで、(昭和 1015) ま  
で、(昭和 1019) ままで、(昭和 1023) ままで、(昭和 1027) ま  
で、(昭和 1031) ままで、(昭和 1035) ままで、(昭和 1039) ま  
で、(昭和 1043) ままで、(昭和 1047) ままで、(昭和 1051) ま  
で、(昭和 1055) ままで、(昭和 1059) ままで、(昭和 1063) ま  
で、(昭和 1067) ままで、(昭和 1071) ままで、(昭和 1075) ま  
で、(昭和 1079) ままで、(昭和 1083) ままで、(昭和 1087) ま  
で、(昭和 1091) ままで、(昭和 1095) ままで、(昭和 1103) ま  
で、(昭和 1107) ままで、(昭和 1111) ままで、(昭和 1115) ま  
で、(昭和 1119) ままで、(昭和 1123) ままで、(昭和 1127) ま  
で、(昭和 1131) ままで、(昭和 1135) ままで、(昭和 1139) ま  
で、(昭和 1143) ままで、(昭和 1147) ままで、(昭和 1151) ま  
で、(昭和 1155) ままで、(昭和 1159) ままで、(昭和 1163) ま  
で、(昭和 1167) ままで、(昭和 1171) ままで、(昭和 1175) ま  
で、(昭和 1179) ままで、(昭和 1183) ままで、(昭和 1187) ま  
で、(昭和 1191) ままで、(昭和 1195) ままで、(昭和 1203) ま  
で、(昭和 1207) ままで、(昭和 1211) ままで、(昭和 1215) ま  
で、(昭和 1219) ままで、(昭和 1223) ままで、(昭和 1227) ま  
で、(昭和 1231) ままで、(昭和 1235) ままで、(昭和 1239) ま  
で、(昭和 1243) ままで、(昭和 1247) ままで、(昭和 1251) ま  
で、(昭和 1255) ままで、(昭和 1259) ままで、(昭和 1263) ま  
で、(昭和 1267) ままで、(昭和 1271) ままで、(昭和 1275) ま  
で、(昭和 1279) ままで、(昭和 1283) ままで、(昭和 1287) ま  
で、(昭和 1291) ままで、(昭和 1295) ままで、(昭和 1303) ま  
で、(昭和 1307) ままで、(昭和 1311) ままで、(昭和 1315) ま  
で、(昭和 1319) ままで、(昭和 1323) ままで、(昭和 1327) ま  
で、(昭和 1331) ままで、(昭和 1335) ままで、(昭和 1339) ま  
で、(昭和 1343) ままで、(昭和 1347) ままで、(昭和 1351) ま  
で、(昭和 1355) ままで、(昭和 1359) ままで、(昭和 1363) ま  
で、(昭和 1367) ままで、(昭和 1371) ままで、(昭和 1375) ま  
で、(昭和 1379) ままで、(昭和 1383) ままで、(昭和 1387) ま  
で、(昭和 1391) ままで、(昭和 1395) ままで、(昭和 1403) ま  
で、(昭和 1407) ままで、(昭和 1411) ままで、(昭和 1415) ま  
で、(昭和 1419) ままで、(昭和 1423) ままで、(昭和 1427) ま  
で、(昭和 1431) ままで、(昭和 1435) ままで、(昭和 1439) ま  
で、(昭和 1443) ままで、(昭和 1447) ままで、(昭和 1451) ま  
で、(昭和 1455) ままで、(昭和 1459) ままで、(昭和 1463) ま  
で、(昭和 1467) ままで、(昭和 1471) ままで、(昭和 1475) ま  
で、(昭和 1479) ままで、(昭和 1483) ままで、(昭和 1487) ま  
で、(昭和 1491) ままで、(昭和 1495) ままで、(昭和 1503) ま  
で、(昭和 1507) ままで、(昭和 1511) ままで、(昭和 1515) ま  
で、(昭和 1519) ままで、(昭和 1523) ままで、(昭和 1527) ま  
で、(昭和 1531) ままで、(昭和 1535) ままで、(昭和 1539) ま  
で、(昭和 1543) ままで、(昭和 1547) ままで、(昭和 1551) ま  
で、(昭和 1555) ままで、(昭和 1559) ままで、(昭和 1563) ま  
で、(昭和 1567) ままで、(昭和 1571) ままで、(昭和 1575) ま  
で、(昭和 1579) ままで、(昭和 1583) ままで、(昭和 1587) ま  
で、(昭和 1591) ままで、(昭和 1595) ままで、(昭和 1603) ま  
で、(昭和 1607) ままで、(昭和 1611) ままで、(昭和 1615) ま  
で、(昭和 1619) ままで、(昭和 1623) ままで、(昭和 1627) ま  
で、(昭和 1631) ままで、(昭和 1635) ままで、(昭和 1639) ま  
で、(昭和 1643) ままで、(昭和 1647) ままで、(昭和 1651) ま  
で、(昭和 1655) ままで、(昭和 1659) ままで、(昭和 1663) ま  
で、(昭和 1667) ままで、(昭和 1671) ままで、(昭和 1675) ま  
で、(昭和 1679) ままで、(昭和 1683) ままで、(昭和 1687) ま  
で、(昭和 1691) ままで、(昭和 1695) ままで、(昭和 1703) ま  
で、(昭和 1707) ままで、(昭和 1711) ままで、(昭和 1715) ま  
で、(昭和 1719) ままで、(昭和 1723) ままで、(昭和 1727) ま  
で、(昭和 1731) ままで、(昭和 1735) ままで、(昭和 1739) ま  
で、(昭和 1743) ままで、(昭和 1747) ままで、(昭和 1751) ま  
で、(昭和 1755) ままで、(昭和 1759) ままで、(昭和 1763) ま  
で、(昭和 1767) ままで、(昭和 1771) ままで、(昭和 1775) ま  
で、(昭和 1779) ままで、(昭和 1783) ままで、(昭和 1787) ま  
で、(昭和 1791) ままで、(昭和 1795) ままで、(昭和 1803) ま  
で、(昭和 1807) ままで、(昭和 1811) ままで、(昭和 1815) ま  
で、(昭和 1819) ままで、(昭和 1823) ままで、(昭和 1827) ま  
で、(昭和 1831) ままで、(昭和 1835) ままで、(昭和 1839) ま  
で、(昭和 1843) ままで、(昭和 1847) ままで、(昭和 1851) ま  
で、(昭和 1855) ままで、(昭和 1859) ままで、(昭和 1863) ま  
で、(昭和 1867) ままで、(昭和 1871) ままで、(昭和 1875) ま  
で、(昭和 1879) ままで、(昭和 1883) ままで、(昭和 1887) ま  
で、(昭和 1891) ままで、(昭和 1895) ままで、(昭和 1903) ま  
で、(昭和 1907) ままで、(昭和 1911) ままで、(昭和 1915) ま  
で、(昭和 1919) ままで、(昭和 1923) ままで、(昭和 1927) ま  
で、(昭和 1931) ままで、(昭和 1935) ままで、(昭和 1939) ま  
で、(昭和 1943) ままで、(昭和 1947) ままで、(昭和 1951) ま  
で、(昭和 1955) ままで、(昭和 1959) ま

2

第四回 清夜九点钟

十九

*K*

朱子語類 卷之三

當時之民風 (1932)

高水冷

七

三九代

藤井良藏 [考究(大正7年), 学習中  
日土太三 (清音)]

日本大正（清）

# 高数研究

一毛不  
才说话 (2)

共立社 清庵

## 五種のまろやか

貞近初年及之遺稿 (民新甲子年)

高亨先生集

经济部辛亥年三月清查(印制) 591

毕业川流不息——  
~~（毕业）~~

~~(第3章の作業)~~

七言詩者三

が世へ去る大いに今や日本を好んで研究する

春子の薬局を始め得るに至った

叶作定，徐才起，翁善衡。

中尉在任時の第一基本

井手士のする書類へシテ  
文

東北一帯に於ける地質構造とその成因

2019年9月26日 大成(2) 184-  
二

正月の事は、おまかせ

英語の筆者、

共社，進德  
立

此處所見之標本，其形狀與前記者極為相似，故可歸於此。

改定の 101-5312 号  
改定 1914年 1月 18日  
大正 14 年 1 月 18 日  
京一役太线  
(1914年1月18日)

(3)

第五章 教育方針選述

このが 漢字を書いたのが草紙  
の元 小学校へおひ

1917(大正6) 教育方

林、三字  
同様

1919(大正8) 日本中学校教育法成立

(教育省令) 增補改訂第3会  
部法

1924(大正13)

大正末期に至る 1924年  
十二月十五日施行

左官料民の  
教員又は公務員  
(明治4) 1929.

「吉澤新元」  
「吉澤新元」

東京師  
管

教育政策

1929

日土太字の向住 (明治4)  
(教育省令)

320 方方洋  
2. 謂

高志洋文 (明治11)

教育 (大正7)  
?

(生)

29回の本

社会的・思想的

大きく伸びる

第一次大戦(1914)

(1919 改造) 1月7日(大正)

大正主題

元から 1920~21 7月22日(月)より、1月同上

アーバン化 1月7日(1922)

関東大震災(1923)

猪俣(1926~28)

官能

恋愛(1929)

○29 同じ日本は社会は 大きく変遷

大正(1922) 改良社の批評で書かれた

日本、ついで [n.2] 1月7日(大正) 『科学』  
の現代日本文庫集 岩谷文庫(1927) [n.2] 1月7日(大正) 『科学』  
[n.2] 1月7日(大正) 1月7日(大正) 1月7日(大正)

『政治小説』(新潮社)  
[n.2]

○29 情報思潮  
第一次大戦(1920)

天皇(1920) 1月7日(大正)  
末路人(1月7日(大正))  
瑞州の變(1931.10.6) 1月7日(大正)  
『天皇の危機』を目前

大正社会は日本における吉田の展開

(高木、善子)  
宇内、鶴居

政治小説

~~1)~~ チャールズ・スミスの代数

これは 1902 年三者堂発行の翻刻書で、1913 年(仙台)

第三臨時教員養成所において、小倉か代数の  
講義に使用したテキストなのです。小倉自身の書き入れ  
を 25 人左さい。

~~2)~~

~~2)~~ クライン 高等幾何学 ~~講義~~ <sup>階梯</sup> (ライアード, トイブラー  
書店, 再版, 1901 年) の 1~10-2

(1)